景況感改善、DIはプラスに
機械器具部品はリーマン前の水準に
中小企業景気動向調査（7～9月期）

当金庫が行った2017年7～9月期の「中小企業景気動向調査」の結果がまとまった。調査期間は8月22日～9月6日。調査対象はお取引先企業987社。回答数は913社。（回答率92・5パーセント）

業況

業況判断DIがプラスに
製造業の景況感が大幅改善

企業の景況感を表す業況判断DI（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）は、全産業で0・5となり、4～6月期（マイナス3・9）にくらべ、4・4ポイント改善した。改善は2四半期連続。わずかながらプラスに転じた。プラスは7四半期ぶり。

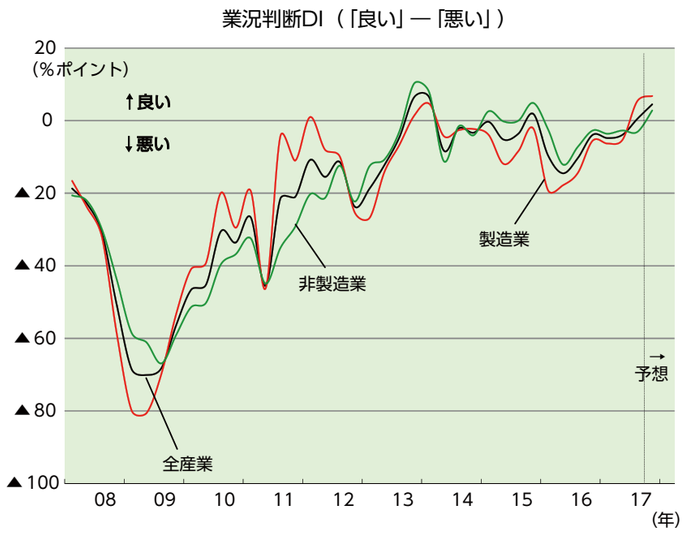
製造業は前回調査のマイナス5・3から大幅に改善して5・4。3年半ぶりにプラスに浮上。

非製造業は0・4ポイント悪化してマイナス3・1となった。

機械器具部品が堅調を維持
自動車部品は2年半ぶりに浮上

業種別にみると、製造業では機械器具部品が、引き続き堅調を維持した。業況判断DIは31・7と、リーマンショック前の水準を回復。国内外の機械需要の持ち直しが寄与したとみられる。

自動車部品は2・9。4～6月期（マイナス14・3）にくらべ大幅に改善し、2年半ぶりにプラスに浮上した。足元の国内自動車販売が持ち直しつつあるのが要因のひとつ。



このほか、金属製品が改善。窯業・土石、木材・木製品、繊維製品、食料品は悪化した。

不動産業は2期連続で改善

非製造業では、小売業、建設業、不動産業の景況感が改善する一方、卸売業、飲食業、運輸業、サービス業は悪化した。

卸売業はマイナス11・3。機械器具部品卸には堅調さが見られたが、そのほかは総じて冴えなかった。とくに農畜産物・水産物卸は、天候不順の影響でマインドが大幅に悪化した模様。

小売業は依然として水面下に沈んだままだが、7・9ポイント改善した。ネット販売業との競合が激しくなっているようで、「厳しい」といった声も聞かれた。

飲食業は、食材仕入価格の上昇が収益を圧迫したところが少なくなかったとみられ、景況感が大幅に悪化。DIはマイナス30・0となった。

建設業は2・1。2四半期ぶりの改善で、再びプラスに戻った。

重点経営施策

1位　人材の確保（48.0%）
2位　販路の拡大（42.4%）
3位　経費の節減（37.6%）
4位　教育訓練の強化（18.0%）
5位　情報力の強化（17.1%）

経営上の問題点

1位　人手不足（44.3%）
2位　売上の停滞・減少（38.3%）
3位　同業者間の競争激化（25.1%）
4位　利幅の縮小（23.0%）
5位　人件費の増加（18.1%）

設備工事業や一般住宅建築業が牽引した格好。公共工事業は、工事の実施の遅れや、工事量の少なさが響いて、やや苦戦を強いられている。

不動産業は27・0。堅調な需要を背景に2四半期連続の改善となった。ただ、改善幅は小幅にとどまった。

運輸業は11・3ポイント悪化して9・3。売上が伸び悩んだ企業が増えたことが影を落とした。とはいえ、DIはプラス領域で推移しており、底堅さもある。

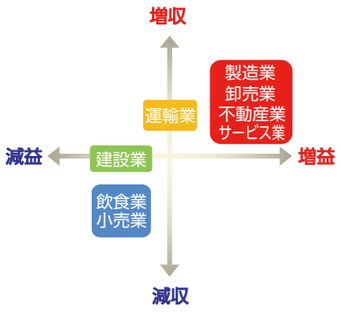
サービス業は7・9。設計やメンテナンスなどの法人向けサービスの改善は続いているが、個人向けサービスが振るわない。

売上・収益

3年半ぶりの増収増益に

足元の動向を示す前年同期に比べた売上額判断DI（「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は全産業で5・2となり、2四半期連続のプラスとなった。同収益判断DIも0・7と、プラスに転じた。そろってプラスになるのは3年半ぶり。

業種別にみて増収増益だったのは、製造業、卸売業、不動産業、サービス業。減収減益は、飲食業と小売業。



人手

深刻な人手不足つづく

人手不足感はまったく収まっていない。過不足判断DI（「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）は、全産業でマイナス36・3と、「不足」超過の状態が続いている。

とくに深刻なのは、飲食業と運輸業で、「まったく採用ができていない。募集しても反応がない」といった切実な声もある。

お客様の声

- 最低賃金の上昇が続くなかで、下請け的な中小零細企業は、コスト増を価格に転嫁することが難しい。（樹脂成型）
- 猛暑でUVカット化粧品の売れ行きが好調。（美容関連商品 卸）
- 遊技機の規制が強化されることになり、出荷台数の減少が懸念される。部品メーカーの競争激化も予想され、当社の利幅も縮小するのではないかと心配している。（組立機械・電子部品卸）
- 消費マインドが少しずつ改善しているように感じる。（玩具・ホビー 小売）
- 米国産牛肉へのセーフガードで、牛肉の価格が上昇。コスト増になっている。（肉・魚介類 小売）
- 残業時間の増加と取引先企業数の減少で、収益が悪化。新規雇用と新規開拓が必要だと感じる。（環境装置の企画・設計・製造）
- 需要は十分にあるが、人手不足で売上増加に繋げられないもどかしさがある。（建設塗装工事・防水工事）
- ドライバー不足。深夜に断る場合の対応を検討中。（タクシー）